

今さらかもしれませんが...
あえて
ひるがの体験
ツアー



今回乗せてもらった馬は、
タケル♂18才、ドンキー♀19才。
食いしん坊のベテランペア。
馬を引いてくださったのは、
瀬川さんと井谷さんです。



馬に揺られてカッポカッポ。
ひるがのは緑がいっぱいだなぁ、
なんて、子どもは思っていないか。

今回、ご協力いただいた
「ホープロッジさん」
の営業情報

- 営業時間●
AM9:00~11:30
PM1:30~4:30
- 定休日/木曜日●
※夏休み期間は無休
(臨時休業有)
- ※8月最終土日は休業
※冬期(12月~3月)休み
- 料金●
柵内 1000円
外乗 2km 4500円
4km 8000円



Tel. 0575-73-2339



本州在来の木曾馬の放牧は飛鳥時代(6世紀頃)に遡ります。平安~江戸時代は武士の馬としても使用され、農耕馬、荷馬として重宝されました。ところが飼育数も増加した明治時代、その中型体型が、軍用には不適格とされます。そこで軍は西洋馬の導入を進め、在来種の改良を進めた。その結果、純潔の木曾馬の数は激減。さらに昭和に入り、戦争が激しくなると、多くの馬が戦地に駆り出され、帰ってこなかった。これが、木曾馬の減少の大きな原因と言われます。現在では、長野県開田村の畜産センターへの登録が約150頭。長野県では天然記念物に指定されているそうです。

初夏の山のあちらこちらで目に入る紅色の小花、通称「ダニバナ」。「ダニがついているから、家には持ち込まず」といわれて育った人も少なくないのでは？ それ、本当なのでしょうか？ 中田さんにご協力いただき、調べていただきました。

谷や斜面に咲き、萼が中空になっていることからついた名前が「タニウツギ(谷空木)」。それが、飛騨地方の濁つて言う習慣によって「ダニウツギ」に。本当はダニがついているわけではないのです。確かに、この時期の他の花同様アワフキムシの泡(巣)がついていたり、ハチが寄ってきたりと、虫もついてはいるけれど、「谷」ウツギが正統なら、「タニ」はやっぱりかわいそう。

他にも油分が多く、風呂のたきつけなどに使うと、煙がたくさん出るため、「カシバナ」と呼ばれ、「火事になるから、持つてくるな」と言われたり、「縁起が悪い」と言われたり...。

一応根拠がありそうですがね、と中田さん。でも、と付け加えてくださいました。「イワシバナ(鯛がとれる頃)」、田植の頃に咲くから「タウエバナ」「サオトメバナ」など、俳句の季語になりそうな別称もある。

「私なら、花の形が早乙女の編み笠に似ているから、「早乙女花」としたい。」なるほど。

飛騨近辺では、かわいそうな扱いを受けているタニウツギですが、所変わってフランスのバリでは、公園の植木として、美しい枝を伸ばしていたりもするようです。

協力/中田 信也さん



6月27日(土) 晴れ、ホープロッジへ。

晴れた青空を見てふと思立ち、子どもと木曾馬の外乗(柵外乗馬)に行きました。梅雨の合間、歩くと少し汗ばむくらいいい天気。馬での散歩にはとてもいい季節です。小学生の3人は、2頭の馬に交代で乗り、馬の道草にも楽しそう。まだ一人では乗れない3歳の娘を抱っこしたり、手をつないで歩いたりしながらも十分ついていける。そんなのんびりしたペースは、地元に住む私たちにもいつもと違う顔のひるがのを見せてくれました。

ひるがの名物!? 木曾馬の外乗

ひるがのにいれば誰でも、観光客が馬に乗って散歩している姿を見かけたことがあるはず。ここではそれがかなり当たり前の風景になっています。でも、話を聞いてみると、意外にも、馬の柵外での散歩は木曾馬でなくても珍しいのだとか。柵内での引き馬ならやったことがある、という人も少なくないと思いますが、ぜひ一度は外乗を。2kmコースなら時間にして約30分、最後に林の中を歩いてくるのが避暑地っぽくて、特におススメです。

木曾馬と友達みたいに仲良くなって欲しい。

一時は絶滅寸前とまで言われた木曾馬。おとなしくのんびりした性格で、女性や子供にも扱いやすいと言われています。いつもお世話してくれる人のことはもちろん、何度も足を運んで、ブラッシングしてやったりすると、その人のことをちゃんと憶えるそうです。スタッフのみなさんは、「地元の子どもたち大歓迎」と言います。「うちは基本的に出入り自由。遠慮しないでどろん遊びに来てよ。忙しければ忙しい、邪魔なら邪魔と言うから」と笑っていました。

観光客じゃなくたって お馬の背中楽しい♪

どきどき。出発するよ、大丈夫かな?

まだ馬に乗れないおちびさんを抱っこして、のんびり歩いてついていっちゃおう。

「車の屋根が見えておもしろかった」外乗だから、味わかるひとコマです。

まさに道草を食うアクシデント。今日の馬たちは特に食いしん坊だぜ。

林を抜けて帰ります。自宅から数分で、この体験ができるなんて恵まれている。

乗せてくれてありがとう、の気持ち込めて。タンポポも大好物です。

お得クーポン 2km外乗 1頭4,500円を → **2,500円**

9月1日より10月31日までの期間限定(9/15~23・10/17~19を除く)で、外乗2kmのコース/1頭4500円を、2500円でもっともお得に体験できます。必ずこの「ひるがの一と」をご持参ください。この機会にぜひ、お出かけください。

HIRUGANO
ばーど・うおっち

File No.1
オオジシギ

Gallinago hardwickii
チドリ目シギ科
全長約30cm

4月~7月にかけて、早朝や夕暮れ時に上空から「ジェツ、ジェツ、ジェツ」と声が聞こえてきたら、それはオオジシギかもしれない。

オオジシギは漢字で書く「大地鳴」。大きな、(海ではなく)地(つまり内陸)にいる鳴(シギ)という意味である。シギの仲間の多くは海岸にいるから、内陸にいるというのはシギの仲間では少数派である。他のシギの仲間と同じく、くちばしが長い。その長いくちばしで、土の中にあるミズや水や泥の中にある甲殻類(ザリガニなどの仲間)を捕らえて食べている。

ユニークな行動として、鳴きながら旋回飛行をする。ときおり急降下するが、この際にやかましく鳴き、風を切る音をする。ここにわざわざいることを仲間知らせていると考えられている。この行動を鳥の専門家たちは「ディスプレイ・フライト」と呼ぶ。ディスプレイ・フライトは、早朝や夕方が多いが昼間や夜間にも行うことがある。また、地面や杭や電柱のてっぺんに止まって鳴いていることがあるが、電線や木の枝には止まらないようである。

渡り鳥であり、冬場はオーストラリア付近にいて子育てのために春に日本に渡って来て秋に去って行く。春や秋には日本全国で渡りの途中の姿が見られるが、繁殖地の多くは中部地方以北から北海道、サハリンまでである。岐阜県下では近年、ひるがの高原以外で雛が見つからない。ひるがの高原周辺では、板橋や上野を含めて、なわばりは多くて7箇所くらいだと考えられている。そのため、つがいと雛の数をすべて足しても全部で30~50羽しかいないであろう。岐阜県内で絶滅のおそれのある生物のリストにも載っている貴重種であり、環境省のリストにも載っている。

ディスプレイ・フライトが見られるのは、湿原や牧草地周辺である。私の家の裏には湿原があり、時折、オオジシギのディスプレイ・フライトの声で目が覚める。自宅上空にオオジシギが飛んでいるのは面白いと思う。



【文:瀬川和也 / 写真:森島充好、瀬川和也、中田香代子】